

## 荒木家資料について

荒木家文書 344 点は、平成 7 年初夏当館へ寄贈されたものである。

荒木家々系図によれば、荒木家の祖先は、摂津の有力武士であったが、後に織田信長に反逆して敗れ、その一族郎党の総てを惨殺されたといわれる、有名な悲劇の勇将荒木村重であるという。

その後、母方の姓奥村を名乗り、元禄八年頃内藤侯に召し抱えられ、以後七代にわたり、明治維新に至るまでの百七十年間余、高遠藩士であった。（文化年間、また、本姓の荒木姓に改名）荒木家は、代々家禄ほぼ百石、御武具奉行、御金奉行、御旗奉行、大目付、御使番、元々役、郡代、御側用人など、藩内の要職を歴任した給人の家柄であった。

荒木家文書の年代は、天保以後幕末頃の物が多く、ほぼ三分の二程が私文書に類する物であるが、天保年間の写本「臣下代々録一～五」「御役年代記 五巻」などは、高遠藩の基礎的資料として非常に貴重な物であり、また、戊辰戦争従軍の記録「北越応援日誌」には、若い高遠藩将兵の様子が生々しく伝えられており、官軍の錦布の袖印など、珍しい物も残されている。

多くの私文書の中には、家族の冠婚葬祭に関する詳細な諸控書があり、当時の風習や、交際の範囲などを知るための大切な手掛かりともなる資料であり、また、維新後、山梨県警察巡査勤務中の諸控書なども、明治初期の地方警察の機構や、治安の状態などを伝える興味ある資料と思われる。